

平成25年度入試問題（推薦入試Ⅰ）

小論文（出題意図）

（法文学部 言語文化学科）

1

外来語が日本語の中で定着する過程と、最近の外来語の氾濫について論じた文章から出題しました。テキストを正確に理解する読解力、自分の意見を説得的に論述する表現力を問いました。

問1では、筆者の論旨を的確に捉えて、それを簡潔に記述できるかを問いました。「記号的意味」と「連想的意味」との関係が筆者がどのように考えているかを読解することが重要です。

問2では、筆者の言う「意味の逸脱」を理解した上で、適切な例を挙げて、筋道を立てて自分の意見を論じることができるかを問いました。また、言葉に対する関心の程度も問われています。

2

自己決定と自己決定権とを区別し、その混同について批判的に論じた文章から出題しました。文章の流れの中で筆者の論旨を正確に理解する読解力、問われている点を明確に把握してそれを論理的に説明する能力を問いました。

問1では、筆者の論述に即して内容を読み取ることができるか、そしてそれを的確に表現できるかを問いました。「縦糸」と「横糸」という言葉で筆者が何を言おうとしているかを理解することが大切です。

問2では、「自己決定」と「自己決定権」の違いに関する筆者の主張を正確に把握した上で、「具体性」が「切り捨てられる」理由を、論理的かつ簡潔に説明できるかを問いました。